

「喜び」「悲しみ」などの感情を、〈be + 形容詞 + to 不定詞〉、〈be + 形容詞 + that ~〉、〈be + 形容詞 + 前置詞〉、〈be + 過去分詞〉(受動態)などの形を用いて表現できる。特に〈感情を表す語 + to 不定詞 ~〉は多くの場面で使うことが可能。これらの様々な例を見ていこう。

感情	語句	例文
喜び	happy,	I was very happy this morning to find an e-mail from her. (今朝彼女からEメールが来ているのを知ってとてもうれしかった)
	glad,	
	pleased,	She is glad that her son is coming back from America soon. (彼女は息子が間もなくアメリカから帰国するのを喜んでいる)
	delighted など	
悲しみ	sad,	We are sorry to hear the news of his death. (彼の死の知らせを聞いて、私たちは残念に思います)
	sorry,	
失望	disappointed	He was disappointed at the result of the selection. (彼は選考の結果にがっかりした)
	など	
驚き ショック	frightened,	The boy was frightened of the barking dog. (少年はほえる犬におびえた)
	surprised,	She was surprised to see a big rat run out of the closet. (彼女は押し入れから大きなネズミが飛び出して来るのを見て驚いた)
	shocked	I was so shocked that I could say nothing. (私は大きなショックを受けたので、何も言えなかった)
	など	
魅了 興奮 熱狂	fascinated,	Visitors are fascinated by the clear, blue waters of the lake. (観光客は、その湖の青く澄んだ水に魅せられる)
	excited,	
	eager	She was eager to feed the water birds. (彼女はしきりに水鳥にエサをやりたいがった)
誇り 恥	proud,	I am proud of my aunt because she is a famous pianist. (私はおばを誇りに思う。彼女は有名なピアニストだからだ)
	ashamed	She is ashamed to tell the story to others. (彼女はその話を他人にするのを恥ずかしいと思う)
恥	など	

# 第8章 動名詞

## イメージをつかもう

### -ingは何?

趣味やスポーツの名前の中には「～イング(-ing)」という形の言葉がありますね。クッキング(cooking), ガーデニング(gardening), ランニング(running), ジョギング(jogging), それに冬季オリンピックで脚光を浴びることになったカーリング(curling)など、これらは英語そのままの形で用いられています。ところでこれらの語尾の「～イング(-ing)」というのは一体何でしょうか。これらの語の成り立ちを見てみましょう。



- cook(料理をする) → cooking(料理をすること→料理)
- garden(庭仕事をする) → gardening(庭仕事をする→園芸, 植物の栽培)
- run(走る) → running(走る→ランニング)
- jog(早足で進む) → jogging(早足で進む→ジョギング)

これらの語はそれぞれ動詞の cook, garden, run, jog に -ing がついてできた語であることがわかります。動詞を〈動詞の原形 + -ing〉の形にすると「～すること」の意味を表し、これを動名詞と言います。動名詞は文字通り「動詞の性質をかねそなえている名詞」という意味です。動名詞の中には完全に名詞化したものもあり、それらは辞書に見出し語として出ています。

### 進行形の -ing とは違う

running と言えば、I'm running.(私は走っているところです)のような文でも見かけますが、この章で扱う -ing 形(動名詞)は、進行形の文で使う -ing とは違います。進行形〈be + -ing〉の -ing は現在分詞と言い、第3章 時制や第9章 分詞で扱います。



## 動名詞を使おう

ところで、「どんなスポーツが好きですか？」と聞かれたら、あなたならどう答えますか。

I like baseball. (野球が好きです)

I like soccer. (サッカーが好きです)

これでも十分ですが、もうちょっと具体的に言ってほしい感じがしますね。プレーするのが好きなのか、それとも観戦するのが好きなのかはこれではわかりません。ここで動名詞を使ってみましょう。

I like **playing** baseball.

(野球をするのが好きです)

I like **watching** soccer games.

(サッカーの試合を見るのが好きです)

このように、動名詞を使うことによって、よりわかりやすいくわしい説明が可能になります。



## 動名詞と不定詞はどう違う？

動名詞は名詞と同じ役割をし、「～すること」の意味を表します。この点は、不定詞の名詞的用法と同じですね。

ski(スキーをする)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{skiing (スキーをすること)} \\ \text{to ski (スキーをすること)} \end{array} \right.$

read(読む)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{reading (読むこと)} \\ \text{to read (読むこと)} \end{array} \right.$

でも、全く同じように使えるかというと、そうではありません。

I enjoy **skiing**. (私はスキーを楽しむ)

(× I enjoy to ...)

Have you finished **reading** the book? (その本を読み終えましたか)

(× Have you finished to ...?)

enjoy や finish は、不定詞を目的語にすることができません。enjoy, finish の後に来て目的語になるのは動名詞のほうです。このように、動詞によっては、不定詞か動名詞のどちらかしか目的語にできないものがあります。

## 動名詞のイメージ

動名詞は、-ing がついていることからわかるように、「進行中」の意味を含んでいます。だから、「今～している」または「いつも～する」ことについて言うのによく使われるのです。

**enjoy -ing** 「(今していること・いつもしていること)を楽しむ」

**finish -ing** 「(今していること)を終える」

## 不定詞のイメージ

逆に、to 不定詞は方向や目標を表す to がついて、未来に向かうイメージがあります。ですから「これから～する」ことについて使われることが多いのです。

We decided **to carry out** the plan.

(私たちは計画を実行することに決めた)

He refused **to come** with us.

(彼は私たちと一緒にいくことを拒んだ)

このことを覚えておくと、次のようなことも理解できます。

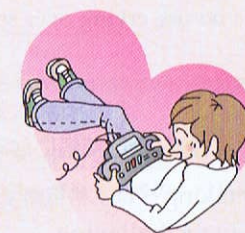
あなたが、What is your hobby?(趣味は何ですか)と尋ねられたとき、次の答えのどちらがよりふさわしいのでしょうか。

① My hobby is **playing** computer games.

② My hobby is **to play** computer games.

意味は、「私の趣味は、コンピューターゲームをすることです」。趣味ですから、「これからすること」というより「よくしていること」です。

もうわかりますね。「日常的にしていること」は、不定詞よりも動名詞で表現するほうが適切なのです。答は①になります。



動名詞は、形は現在分詞と同じ-ingで、名詞の働きをするという不定詞との共通点もありますが、それぞれの違いを頭に置いて学習を進めていきましょう。



## §82 必修

## 動名詞の働き

- 181** Traveling abroad is a lot of fun. 海外旅行をすることはとても楽しい。
- 182** His hobby is taking pictures of flowers. 彼の趣味は花の写真を撮ることだ。
- 183** We enjoyed jogging around the lake. 私たちは湖のまわりをジョギングして楽しんだ。
- 184** She insisted on doing it herself. 彼女は自分でそれをすると主張した。

## Point 1 動名詞は「～すること」を表す

動名詞は「～すること」の意味を表し、名詞と同じ働きをするので、文中で主語(→181)、補語(→182)、目的語(→183)、また前置詞の目的語(→184)にもなる。

## Point 2 動名詞は主語になる

**181** で Traveling abroad は文の主語になっている。「～すること」を主語にする場合、日常的な習慣や趣味は動名詞で表現するのが自然である。

Eating too much is bad for the health. (食べすぎるのは健康に悪い)

Walking in the afternoon was his routine.

(午後の散歩は彼の日課であった)

## Q参考 形式主語 it

動名詞が主語の場合、形式主語 It を文頭に置き、動名詞を後にまわすことがある。

**181** → It is a lot of fun traveling abroad.

(=)

It is no use crying over spilt milk.

(=)

(こぼれたミルクをなげてもしようがない→覆水盆に返らず(ことわざ))

不定詞も「～すること」を表すが、「これからすること」についてよく使われる。動名詞は「今していること」「いつもしていること」によく使われる。

→ p.192 参照

## Point 3 動名詞は補語になる

**182** で taking ～は主格補語で、His hobby の内容を示す。

Seeing is believing.

(見ることは信じること→百聞は一見にしかず(ことわざ))

My pastime is reading books on history.

(私の気晴らしは歴史の本を読むことだ)

## Point 4 動名詞は目的語になる

**183** では jogging ～は動詞(enjoy)の目的語になっている。動名詞を動詞の目的語にする動詞には、enjoy の他、finish, stop などがある。

I have finished writing the report. (私は報告書を書き終えた)

He stopped walking and took a rest.

(彼は歩くのを止めて、休憩した)

→ p.196 参照

## Point 5 動名詞は前置詞の目的語になる

**184** で doing ～は前置詞 on の目的語になっている。

She went out without saying good-bye.

(彼女はさよならも言わずに出て行った)

I am very sorry for coming late.

(遅刻して本当に申し訳ありません)

## /注意 不定詞は前置詞の後には来ない

名詞的用法の不定詞は、動名詞と違って前置詞の目的語にはなれない。

このことは、動名詞と不定詞の最も大きな違いである。

× He is fond of *to play* video games.

○ He is fond of **playing** video games.

(彼はテレビゲームをするのが大好きだ)

## Q参考 同格を表す(of + 動名詞)

ある種の名詞はその後に(of + 動名詞)の形を続けて同格の意味「～する[である]という…」を表す。

There is little hope of **recovering** the loss.

(損失を回復できる見込みはほとんどない)

There's a possibility of her **coming**.

(彼女が来るという可能性がある)

前置詞の目的語とは、前置詞の後に来る(代)名詞や動名詞のこと。

→ p.369, 501 参照

## CHECK AND EXPRESS 82

( )内の語(句)を並べかえて、次の対話を完成しなさい。

1. A: What should I do here?

B: ( job / the data / is / your / analyzing ). \* analyze 分析する

2. A: What is your brother's hobby?

B: ( reading / of / novels / is / he / fond ).



## ギモンのタネ (23) sleeping bag の sleeping は現在分詞? 動名詞?

sleeping bag は「寝袋」の意味で、この sleeping は動名詞。動名詞が名詞の前に来て、形容詞的に用いられることがある。この場合、動名詞はその名詞の用途「～用の」や目的「～するための」を表す。

a **sleeping** bag = a bag for sleeping (寝袋) [←寝るための袋]

(動名詞+名詞)の例には、他に次のようなものがある。

a **walking** stick = a stick for walking (ステッキ), a **washing** machine (洗濯機),

a **dining** room (食堂), a **sleeping** car (寝台車)

現在分詞の -ing は、「～している」の意味を表す。 → p.205 参照

Let **sleeping** dogs lie. [現在分詞+名詞]

(眠っている犬はそっとしておけ[さわらぬ神にたたりなし])(ことわざ)

上に示した´(アクセント)に注意しよう。(動名詞+名詞)では、動名詞のほうを強く読み、(現在分詞+名詞)は両方を同じ強さで読む。

→ sleeping bag は(動名詞+名詞)





## §83 必修

## 動名詞の意味上の主語

185 I don't like *using* a computer.

私はコンピューターを使うのは好きではない。

186 I don't like **his [him]** *using* my computer.

私は彼に私のコンピューターを使ってもらいたくない。

187 I don't like **my brother('s)** *using* my computer.

私は兄[弟]に私のコンピューターを使ってもらいたくない。

## Point 1 意味上の主語を示さない場合

動名詞の意味上の主語が文の主語と同じ場合は、意味上の主語は示されない。185 では、「コンピューターを使う」のは主語である I(私)で、(動名詞の意味上の主語 = 文の主語)になっているので、意味上の主語を特に示していない。

She was afraid of *losing* her way. [文の主語と一致]  
(彼女は[自分が]道に迷うのではないかと心配した)

また、意味上の主語が「一般の人」をさす場合や、述語動詞の目的語が動名詞の意味上の主語と一致している場合も、意味上の主語を示さない。

*Keeping* early hours is good for the health. [一般の人]  
(早寝早起きは健康によい)

Thank **you** for *coming* all the way here. [目的語と一致]  
(わざわざおいでいただき、ありがとうございます)

keep early hours は「早寝早起きをする」、  
keep late hours は「夜ふかしをする」。

all the way は「(遠路を)はるばる、ずっと」の意味。

## Point 2 意味上の主語を示す場合

動名詞の意味上の主語が文の主語と一致しないときは、意味上の主語を示す。

a. 意味上の主語が代名詞の場合は、所有格または目的格にして動名詞の前に置く。186 では「コンピューターを使う」のは主語の「私」ではなく「彼」なので、動名詞の前に his または him を置く。口語では特に目的格が好まれる。

Do you mind **my [me]** *sitting* on this seat?  
(この席に座ってもいいですか)

b. 意味上の主語が名詞の場合は所有格を避けて、そのままの形(目的格)で示すことが多い。187 では「コンピューターを使う」のは「私の兄[弟]」である。my brother's と所有格にすることもできるが、my brother と目的格にすることが多い。

She was afraid of **her son** *losing* his way.  
(彼女は息子が道に迷うのではないかと心配した)

I don't like **visitors** *smoking* in this room.  
(この部屋で来客にタバコを吸ってほしくない)

【注意】 無生物の名詞が意味上の主語の場合は 's をつけない。

He complained about **his salary** *being* too low.  
(彼は給料が少なすぎると不平を言った)

salary の語源は「(ローマ時代に兵士に支払った)塩(salt)を買うためのお金」と言われている。

## CHECK AND EXPRESS 83

日本語の意味を表すように、( )内の語(句)を並べかえなさい。

- あのお金が戻ってくる見込みはない。  
There is ( the money / no / of / coming back / chance ).
- 彼はおじが有名な画家であることを誇りに思っている。  
He is ( of / being / his uncle / a famous painter / proud ).

## §84 必修

## 動名詞の否定形

188 He insisted on **not obeying** the rules. 彼はその規則には従わないと主張した。

## Point 動名詞の否定形は (not [never] + -ing)

動名詞を否定する場合は、not [never] を動名詞の前に置く。

I cannot imagine **not having** a car.  
(車なしの生活なんて想像できない)

never は「(継続的・習慣的に)~しない」の意味を表す。

**Never scolding** a child will spoil him in the end.  
(決して叱らないことは結局子どもをだめにする)

【注意】 意味上の主語がある場合は、(意味上の主語 + not + 動名詞)の語順にする。

I was annoyed by **Tom's not keeping** his promise.  
(私はトムが約束を守らないのでいらいらした)

keep a promise は「約束を守る」、keep a secret は「秘密を守る」。

## CHECK AND EXPRESS 84

日本語の意味を表すように、英文の適当な位置に not を入れなさい。

- 先生は授業を熱心に聞かないのでジムを叱った。  
The teacher scolded Jim for being attentive in class.
- 彼はジョンに会えなくて残念だった。  
He regretted seeing John.

Thank you for not smoking.  
(禁煙に御協力ありがとうございます)▶





**§85 必修**

**動名詞の完了形・受動態**

189 He is proud of **having won** the race twice.

彼はそのレースに2度優勝したことを誇りにしている。

190 Everyone likes **being admired**. 誰でもほめられるのが好きだ。

**Point 1 動名詞の完了形は〈having + 過去分詞〉**

動名詞の完了形は〈having + 過去分詞〉の形になり、述語動詞の示す時よりも以前の時を示す。

189→ He is proud of **having won** the race twice.

現在 以前の時=過去

→ He is proud that he *won* the race twice.

They **were** tired from **having walked** for miles.

過去 以前の時=過去完了[大過去]

→ They were tired because they *had walked* for miles.

(彼らは何マイルも歩いたので疲れていた)

win(勝つ)は win  
- won - won と活用する。

**!注意** 単純形の動名詞

完了形の動名詞に対し、〈動詞の原形 + ing〉を単純形の動名詞と言い、述語動詞と同時、またはそれ以降の時を表す。

She is proud of **being** a singer.

現在 同時=現在

→ She is proud that she *is* a singer.

(彼女は歌手であることを誇りにしている)

He is sure of **passing** the exam.

現在 それ以降=未来

→ He is sure that he *will pass* the exam.

(彼は試験に合格すると確信している)

exam は  
examination の略。

**!注意** remember [forget] -ing

remember, forgetなどは、「(以前のことを)覚えている/忘れる」の意味で、動名詞で示される内容が過去であることがはっきりしているため、わざわざ動名詞を完了形にせず、単純形で示すことが多い。

I'll never forget **seeing** the Southern Cross here.

→ I'll never forget that I *saw* the Southern Cross here.

(ここで南十字星を見たことを私は決して忘れないだろう)

I remember **seeing** him somewhere before.

→ I remember that I *saw* him somewhere before.

(私は彼に以前どこかで会った覚えがある)

他に、**deny**(~を否定する), **recall**(~を思い出す), **regret**(~を後悔する)なども同様に単純形を用いることが多い。

the Southern Cross  
(南十字星)は南半球で見られる星座の名前。

**!注意** not の位置

否定形は not [never] を完了形の動名詞の前に置く。

I'm sorry for **not having answered** your letter sooner.

(あなたの手紙にもっと早く返事を出さなくてすみません)

**Point 2 動名詞の受動態は〈being + 過去分詞〉**

動名詞の受動態は〈being + 過去分詞〉の形になる(→ 190)。

Cats like **being stroked**.

(ネコはなでられるのが好きだ)

**Q参考** want [need] + 動名詞

want, need が動名詞を目的語にとると、受け身の意味になる。この形は主語が無生物の場合が多い。

My car needs **repairing**.

= My car needs to be repaired.

(私の車は修理[されること]が必要だ)

The tooth wants **pulling** out. \*〈want to be + 過去分詞〉は非常にまれ。

(その歯は抜く必要がある)

tooth(歯)の複数形は  
teeth.

**CHECK AND EXPRESS 85**

( )内の語を適当な形になおしなさい。

- A: Is he all right? He looks tired.  
B: Yes. He is very tired from ( work ) for hours.
- A: I hear the man died in the hospital.  
B: That's right. He died two hours after ( take ) to the hospital.

**ギモンのタネ (24) finding は名詞? 動名詞?**

The scientists reported their **findings** in the magazine *Nature*.

(科学者たちは彼らの研究結果を『ネイチャー』という雑誌に発表した)

この例文中の finding は〈動詞の原形 + -ing〉の形で、一見動名詞のようだが、-sがついて複数形になっている。動名詞は主語・補語・目的語になるなど、文法的に名詞と同等の機能を持っているものの、名詞と違って、冠詞をつけたり、複数にすることはできない。だから、この findings のように、複数形になっているものは、動名詞とは言えない。このように、もともとは動名詞であっても、完全に名詞化しているものがある。以下に例を挙げる。

- |             |                              |
|-------------|------------------------------|
| covering    | (ふた, おおい)                    |
| finding     | (発見物, 調査・研究結果)               |
| surrounding | (周囲にあるもの, (surroundingsで)環境) |
| teaching    | ([しばしば teachingsで]教え, 教訓)    |
| thinking    | (考えたこと, 思想)                  |

➡ -ings は名詞



## §86 必修

## 動名詞を含む慣用表現(1)

191 It is no use talking about it now. そのことについて今話してもしかなかった。

192 It goes without saying that she is innocent. 彼女が無罪なのは言うまでもない。

193 There is no telling what he will do next. 彼が次に何をするつもりなのかわからない。

## Point 1 It is no use [good] -ing. 「～しても無駄である」(→ 191)

It is no use [good] telling lies.

(うそをついてもだめだよ)

It is no use [good] trying to catch up with me.

(私に追いつこうとしても無駄だよ)

## Point 2 It goes without saying that ~. 「～は言うまでもない」(→ 192)

It goes without saying that he is responsible for the accident.

= Needless to say, he is responsible for the accident.

(彼がその事故に対して責任があるのは言うまでもない)

It goes without saying that I need the money.

(言うまでもないが、私はそのお金が必要だ)

## Point 3 There is no -ing. 「～できない」(→ 193)

There is no accounting for taste.

(人の好みは説明できない→たで食う虫も好きずき[ことわざ])

There is no denying that he made a mistake.

= It is impossible to deny that he made a mistake.

(彼が間違いをしたことは否定できない)

動詞の account は「(理由を)説明する」の意味。名詞の account は「勘定書、銀行口座」などを表す。

## Point 4 cannot help -ing 「～せずにはいられない」

I cannot help feeling sorry for him.

= I cannot help but [cannot but] feel sorry for him.

(彼に同情せずにはいられない)

過去の文では cannot → couldn't とする。

When I saw that movie, I couldn't help laughing.

(その映画を観て、私は笑わずにはいられなかった)

## Point 5 be worth -ing 「～する価値がある」

This book is worth reading many times.

= It is worthwhile reading this book many times.

(この本は何度も読む価値がある)

Life is worth living. (人生は生きる価値がある)

## Point 6 Would [Do] you mind -ing? 「～していただけますか」

Would [Do] you mind closing the door?

(ドアを閉めていただけますか)

この構文では動名詞の前に意味上の主語を置くこともできる。その場合、「誰が～するか」に注意。

Would [Do] you mind my closing the door?

([私が]ドアを閉めてもいいですか)

Would [Do] you mind her coming to the party?

(彼女がパーティーに来てもいいですか)

## Point 7 of one's own -ing 「自分自身で～した」

文語的な表現で、ふつうあまりよくないことに対して使う。

These troubles are of your own making.

(そのトラブルはあなたが自分で招いたものだ)

He should solve the problem himself. After all, it's of his own doing.

(彼は自分でその問題を解決すべきだ。結局自分でやったことなのだから)

## Point 8 There is no point in -ing. 「～しても意味がない」

There is no point in having a camera if you don't use it.

(使わないならカメラを持っていても意味がない)

## Point 9 be on the point of -ing 「ちょうど～しようとしている」 p.86 参照

He was on the point of getting on the bus.

= He was about to get on the bus.

(彼はちょうどバスに乗ろうとしていた)

## Point 10 never ... without -ing 「…すると必ず～する」

Our uncle never visited us without bringing some presents.

= Our uncle always brought some presents when he visited us.

(おじさんは来るときは必ずプレゼントを持って来た)

## CHECK AND EXPRESS 86

2文がほぼ同じ意味を表すように、( )内に適当な1語を入れなさい。

1. Can I take this book home?

Would you ( ) ( ) ( ) this book home?

2. He has switched off his cell phone. It is impossible to contact him now.

There is ( ) ( ) him now.

3. He was about to leave when I arrived.

He was ( ) the ( ) ( ) ( ) when I arrived.

4. When they meet, they always quarrel.

\* quarrel 口論する

They ( ) meet ( ) quarreling.



## §87 必修

## 動名詞を含む慣用表現(2)

194 He felt like crying at the sight. 彼はその光景を見て泣きたくなった。

195 My sister is looking forward to traveling to Spain.

姉[妹]はスペイン旅行を楽しみにしている。

196 On finishing the report, he mailed it to his boss.

報告書を完成させると、彼はすぐに上司に送った。

## Point 1 feel like -ing 「～したい気がする」(→ 194)

I don't feel like going out today.

(今日は外出する気にならない)

John felt like drinking a glass of beer.

(ジョンはビールを飲みたい気分だった)

この構文は動名詞を省略して用いられることもある。

= John felt like a glass of beer.

## Point 2 look forward to -ing 「～するのを楽しみに待つ」(→ 195)

I am looking forward to seeing him again.

(私は彼にまた会えることを楽しみにしている)

I look forward to hearing from you.

(あなたからのご連絡をお待ちしています)

Point 2~8 の to は、不定詞の to ではなく、前置詞。だから、その後には動詞の原形ではなく、-ing が来る。

## Point 3 be accustomed [used] to -ing 「～することに慣れている」

They are accustomed [used] to standing in line.

(彼らは列をつくって並ぶのに慣れている)

My father is accustomed [used] to getting up early.

(父は早起きすることには慣れている)

## Point 4 What do you say to -ing? / How about -ing? 「～してはどうですか」

What do you say to having dinner with us?

= How about having dinner with us?

(私たちと一緒に夕食でもいかがですか)

## Point 5 come near (to) -ing 「もう少しで～しそうになる」

The car came near (to) hitting the girl.

(車はもう少しでその少女をひくところであった)

John came near (to) falling off the cliff.

(ジョンは崖からあやうく落ちるところだった)

## Point 6 with a view to -ing / for the purpose of -ing 「～する目的で」

She is here with a view to studying painting.

= She is here for the purpose of studying painting.

(彼女は絵画を勉強する目的でここに来ている)

## Point 7 object to -ing 「～することに反対する」

We all objected to spending so much money.

(私たち全員が多額のお金を費やすことに反対した)

## Point 8 when it comes to -ing 「～するということになると」

When it comes to making a speech, no one can beat him.

(演説をすることについては、彼にかなうものはいない)

He is a real coward when it comes to going to the dentist.

(歯医者に行くということになると、彼は本当に臆病になる)

## Point 9 be in the habit of -ing 「～する習慣である、～するくせがある」

My brother was in the habit of drinking before going to bed.

(兄は寝る前に酒を飲む習慣があった)

## Point 10 prevent [keep, stop] ... from -ing 「…が～しないようにする」

The storm prevented the plane from taking off.

(嵐のため飛行機は離陸できなかった)

We have to prevent a computer virus from entering the system.

(コンピューターウイルスがシステムに入り込むのを防がなければならない)

動詞の object は「反対する」、名詞の object は「物体、対象」の意味。アクセントの違いにも注意。

virus の発音は [váiərəs]。

## Point 11 on -ing 「～するとすぐに」(→ 196)

On arriving at the airport, I took a taxi.

= As soon as I arrived at the airport, I took a taxi.

(空港に着くとすぐに私はタクシーに乗った)

!注意 in -ing は「～するときに」の意味を表す。

Never be afraid of making mistakes in speaking English.

= Never be afraid of making mistakes when you speak English.

(英語を話すとき、間違えることを恐れてはいけない)

## CHECK AND EXPRESS 87

2文がほぼ同じ意味を表すように、( )内に適当な1語を入れなさい。

1. Because of illness, she could not go on the tour.

Illness ( ) her ( ) going on the tour.

2. As soon as he heard the news, he ran out of the room.

( ) ( ) the news, he ran out of the room.

3. How about going for a walk?

( ) do you ( ) ( ) ( ) for a walk?



## §88 必修

## 動名詞だけを目的語にする動詞

- 197 They enjoyed *skiing* in Hokkaido. 彼らは北海道でスキーをして楽しんだ。  
 198 Would you mind *calling* me later? 後で電話してくれませんか。  
 — No, not at all. — ええ、いいですよ。

## Point 1 目的語に動名詞をとるか、不定詞をとるか

他動詞の多くは動名詞・不定詞の両方を目的語にするが、動名詞・不定詞のどちらか一方だけを目的語にする動詞もある。

## !注意 辞書の見方

動詞が上のどの型に属するかを必ず辞書で確かめよう。辞書では次のような表示で型が示されている。

avoid (動) (他) [avoid + doing] → 動名詞を目的語にする

hope (動) (他) [hope + to do] → 不定詞を目的語にする

## Point 2 動名詞だけを目的語にする動詞(→ 197, 198)

admit(認める), avoid(避ける), deny(否定する), enjoy(楽しむ),  
 escape(まぬがれる), finish(終える), give up(あきらめる),  
 imagine(想像する), mind(気にする), miss(～しそこなう),  
 postpone(延期する), practice(練習する), put off(延期する),  
 stop(やめる)など

We had better **avoid** *asking* him a favor.

(彼に頼みごとをするのは避けたほうがよい)

Nick **gave up** *trying* to solve the problem.

(ニックはその問題を解決しようとするのをあきらめた)

She arrived late and **missed** *seeing* the parade.

(彼女は遅れて着いたので、パレードを見そこなった)

## !注意 stop to ～(～するために立ち止まる)

stop の後に to 不定詞が続くことがある。この不定詞は目的語ではなく、副詞的用法の不定詞「～するために」である。

He **stopped** *talking* to me. (動名詞)

(彼は私に話すのをやめた)

He **stopped to talk** to me. (不定詞)

(彼は私に話をするために立ち止まった)

problem は「問題」、  
 program は「プログラ  
 ム、計画」。

## CHECK AND EXPRESS 88

( )内の語句のうち、適当なほうを選びなさい。

- I don't understand it well. Would you mind ( explaining / to explain ) it again?
- There was no cake for me! My brother admitted ( having eaten / to have eaten ) my piece.

## §89 必修

## 不定詞だけを目的語にする動詞

- 199 I **hope to travel** abroad during the holiday.  
 私は休暇に外国旅行をしたいと思う。  
 200 She **decided to go** to the party with John.  
 彼女はジョンと一緒にパーティーへ行くことに決めた。

## Point 不定詞だけを目的語にする動詞(→ 199, 200)

agree(同意する), decide(決心する), expect(期待する), hope(～することを望む), mean(～するつもりである), offer(申し出る), plan(計画する), pretend(～のふりをする), promise(約束する), refuse(拒否する), wish(～したい)など

Do you **agree to obey** the rules?

(規則に従うことに同意しますか)

I didn't **expect to win** a prize.

(私は賞を取れるとは期待していなかった)

I'm sorry. I didn't **mean to frighten** you.

(ごめんなさい。おどかすつもりはなかったんです)

Macbeth **planned to murder** his king.

(マクベスは王を殺す計画を立てた)

He sometimes **pretends to be** out.

(彼はときどき留守のふりをする)

Bill **refused to take** the post.

(ビルはその役職につくことを拒んだ)

Keiko **wished to come** with us.

(恵子は私たちと一緒に来たがっていた)

Macbeth はシェーク  
 スピア作の悲劇の主  
 人公の名前。

## !注意 不定詞だけを目的語にする動詞の特徴

不定詞を表す to はもともと「～へ」という未来の方向を示すので、不定詞だけを目的語にとる動詞には意図、希望、決心などに関係したものが多。

## CHECK AND EXPRESS 89

( )内の語(句)を適当な形になおしなさい。

- She was often late for class. When I gave her a warning, she promised ( not be ) late again.
- Our house is too small. We are planning ( buy ) a larger one.
- Have you decided ( go ) on to university?



§90 必修

動名詞と不定詞の両方を目的語にする動詞

- 201 She **began talking** with a boy. 彼女は少年と話し始めた。
- 202 She **began to talk** with a boy. 彼女は少年と話し始めた。
- 203 I **remember sending** the e-mail to her. 私は彼女にそのEメールを送ったのを覚えている。
- 204 **Remember to send** the e-mail to her. 必ず彼女にそのEメールを送ってください。

動名詞と不定詞の両方を目的語にすることのできる動詞もある。

Point 1 動名詞と不定詞で意味が変わらない動詞

次の動詞は、動名詞と不定詞のどちらを目的語にしても、意味があまり変わらない(→ 201, 202)。

**begin**(始める), **continue**(続ける), **hate**(嫌う), **intend**(~するつもりだ), **like**(好む), **love**(大好きだ), **prefer**(~のほうを好む), **propose**(提案する), **start**(始める)など

She **continued working** [to work] all afternoon.  
(彼女は午後ずっと働き続けた)  
I don't **intend staying** [to stay] long.  
(長く滞在するつもりはありません)

stayのように、ayは  
たいてい [ei] と発音  
する。day(日), say  
(言う), way(道)も同  
じ。

Point 2 動名詞と不定詞で意味が変わる動詞

動名詞と不定詞の両方を目的語とするが、意味が異なる動詞がある。  
remember は、203 では動名詞 sending(送ったこと)を「覚えている」、  
204 では不定詞 to send(これから送ることを「覚えておく」の意味で使わ  
れている。

- ① { remember -ing (～したことを覚えている) [過去のこと]  
remember to ~ (忘れずに～する) [未来のこと]
  - ② { forget -ing (～したことを忘れる) [過去のこと]  
forget to ~ (～することを忘れる) [未来のこと]
  - ③ { try -ing (ためしに～してみる) [実際にしてみる]  
try to ~ (～しようと努力する) [できたかどうかは不明]
- I'll never **forget meeting** her. (彼女に会ったことを忘れないだろう)  
Don't **forget to do** your homework. (宿題をするのを忘れないで)
- He **tried operating** the machine by himself.  
(彼はためしにその機械を自分で操作してみた)  
He **tried to operate** the machine by himself.  
(彼はその機械を自分で操作しようとした)

forget は「忘れる」、  
forgive は「許す」。

- ④ { regret -ing (～したことを後悔する) [過去のこと]  
regret to ~ (残念ながら～する) [現在・近未来のこと]
- I **regret saying** such a thing.  
(私はそんなことを言ったことを後悔している)  
I **regret to say** that he is seriously ill.  
(残念ながら、彼は重病です)

Q参考 形容詞の後に来る語が動名詞か不定詞かで、意味が異なることもある。

- S + **be sure of -ing** (Sは[自分が]～することを確信している)
  - S + **be sure to ~** (Sはきっと～するだろう[と話す人が確信している])
- He is **sure of passing** the exam.  
(彼は[自分が]試験に通ると確信している)  
He is **sure to pass** the exam.  
(彼はきっと試験に通るだろう[と私は確信している])
- be **ashamed of -ing** (～したことを恥ずかしいと思う)
  - be **ashamed to ~** (恥ずかしくて～できない)
- I was **ashamed of saying** such a thing.  
(私はそんなことを言ったことを恥ずかしいと思った)  
I was **ashamed to say** such a thing.  
(私は恥ずかしくてそんなことを言えないと思った)

CHECK AND EXPRESS 90

( )内の語句のうち、適当なほうを選びなさい。

1. I tried ( to help / helping ) him, but I have only made things worse.
2. Remember ( to call / calling ) her tomorrow. She will give you important information.
3. I won't forget ( to visit / visiting ) the city. I had a nice time there.



ギモンのタネ (25) I like swimming. と I like to swim. は同じ意味?

動詞が like の場合、動名詞も不定詞も目的語にとることができるので、I like swimming. とも I like to swim. とも言える。ただし、意味合いは少し異なり、次のように使い分けることができる。

I **like swimming**, but I don't **like to swim** when it is cold.  
(泳ぐのは好きだけど、寒いときには泳ぎたくない)

I **like cooking**, but I don't **like to cook** in a hurry.  
(私は料理が[一般的に]好きだが、急いで料理するのは好きではない)

動名詞も不定詞もともに「～すること」を表すが、動名詞は主に「すでにしたこと」「日常的にしていること」について使われ、不定詞は「これからすること」「特定の行為」について使われることが多い。➡ p.185 参照

➡ 動名詞で表す内容は過去・一般のこと、不定詞は未来・特定のことが多い



## ♪ 声に出して読みたい英文 ③

1992年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた国連の環境サミットで、12歳の少女 Severn Suzuki が、環境問題についてスピーチを行った。彼女のスピーチは非常に力強く、多くの人々に感動を与え、その後世界中に広く知られることとなった。ここではその一部を紹介しよう。

I'm only a child and I don't have all the solutions,\* but I want you to realize, neither do you! You don't know how to fix the holes in our ozone layer. You don't know how to bring salmon back up a dead stream. You don't know how to bring back an animal now extinct.\* If you don't know how to fix it, please stop breaking it!

I'm only a child, yet I know we are all part of a family of 30 million species, and we all share the same air, water, and soil — borders and governments will never change that.

I'm only a child, yet I know we are all in this together and should act as one single world towards one single goal. In my anger, I am not losing control, and in my fear, I am not afraid to tell the world how I feel.

In my country, we make so much waste.\* We buy and throw away, buy and throw away. And yet northern countries will not share with the needy.\* Even when we have more than enough, we are afraid to lose some of our wealth, afraid to share.



◀2006年カナダの大学で講演をする Severn Suzuki

注 solution 解決法 extinct 絶滅した waste ゴミ the needy 貧しい人々

## 第9章 分詞

### イメージをつかもう

#### 寒い朝ベッドから出るには？

HOW TO LEAVE BED ON A FREEZING COLD MORNING

Cozy & warm.

Feeling slightly guilty, but just so warm, you look at the clock, 6:01. Work in 2 hours.

Mentally **weighing** up the benefits of going for a run, but on the other hand, **making** up excuses as to why you don't need to go running today.

凍るような寒い朝にベッドから出る方法

(ベッドにいますと)暖かくて、気持ちがよい。

ちょっと後ろめたい気がするが、このままであればとても暖かいと感じながら、あなたは時計を見る。6時1分。2時間後には仕事だ。

ランニングに行けば健康によいと心の中ではわかっている、しかし他方では、今日はその必要はないと自分を納得させるための言い訳をあれこれ考えながら。

ランニングを日課にしている人でも、寒い冬の朝はベッドから出るのはつらいもの。まして、「できたら走ろう」と思う人は、余計に行きたくないと思うでしょう。さて、タイトルの中にある **freezing** (凍るような)には、進行形でよく使う -ing がついています。しかし前に be 動詞もなく、進行形の一部というわけではなさそうです。文中の Feeling, weighing, making も同じです。この -ing はいったい何なのでしょう。

